



もりもと 森本 和征さん
(信楽町神山)

自宅の庭先でモロコを養殖

琵琶湖の固有種といわれ、コイ科の魚類の中でも特においしいといわれるホンモロコ。近年は漁獲量が激減し、高級食材の1つに数えられています。

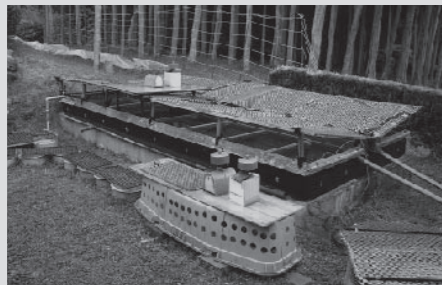
そんなホンモロコが、信楽町神山地先で養殖されています。

「子どものころ味わった魚採りの感激は格別で忘れられません。でも、今自分が住んでいるところは、残念ながら魚に縁のある場所ではありません。なら自分でそういう環境をつくってしまおうと思いはじめました。」と8年前からモロコを養殖されている森本和征さん。

この養殖設備に必要な水は、雨水を利用されています。雨水を集め貯蔵し循環するシステムはすべて森本さん考案のもの。

「モロコをきれいな水で飼いたいと考えた結果が雨水でした。水は天からの贈り物です。日本は雨が降りすぎず、少なすぎず恵まれていると思います。これは大切な資源です。今、社会ではずいぶんと水を無駄使いしているのではないかと感じます。もっと大切にしていかなければと思います。」と話す森本さんですが、水の管理は大変だそうで、以前にはモロコを全滅させた苦い経験も。それでも、育ったモロコを調理し、地域の子どもたちが喜んで食べるのを見るとうれしくてたまらないとのこと。今では、「信楽高原モロコ」として地域のイベントなどで販売されています。

家庭菜園のような感覚で楽しく育てているという森本さんですが、食料の自立に貢献したいとの思いで、今も熱心に研究されています。これからも、信楽高原でモロコが育ち続けることでしょう。



▲森本さん考案の本格的な養殖設備

元気に育ちますように

～市内小学校で田植え体験～

田 植えの季節を迎えたら、月初旬、市内の小学校でも田植え作業が行われました。地元の農家の方に植え方を教わった児童は、さつそくはだしになり水田へ。児童は、何とも言えない泥の感触を楽しみながら、また、稲の成長を思い浮かべながら一株一株丁寧に植えました。



▲泥だらけになりながら田植えをする児童（柏木小学校）

甲賀市観光振興計画を策定

観光振興計画検討委員会やパブリックコメント制度に基づき市民の皆さんなどから意見を伺い、甲賀市総合計画に整合する7年先を見据えた「甲賀市観光振興計画」を策定しました。

この計画では、普段の生活の中に観光資源を見だし、その魅力を高め、観光客の受け入れや交流のための環境を整え、「観光資源」を「観光商品」として売り出すことを方針としています。詳しくは市ホームページや各支所、図書館などで閲覧いただけます。

問い合わせ 商工観光課 商工観光係
☎ 65-0708 ☎ 63-4087

日本の文化を満喫

～デウィット・マーシャル市中学生が来市～

市 と姉妹都市である、アメリカ合衆国ミシガン州マーシャル市とデウィット市・デウィットチャータータウンシップから中学生18人が甲賀市を訪れ、5月7日から14日まで滞在、日本の文化や生活を体験されました。滞り期間中は、ホストファミリーの皆さんと過ごしながら、市内中学生との交流や着物、お茶、剣道、忍者などを体験、日本の文化を満喫されました。



▲着物姿でお茶を体験する皆さん

雄大な自然の中、こいのぼり泳ぐ

～青土ダム～

土 山町の青土ダムに色とりどりのこいのぼりが目見えしました。これは、毎年鮎河緑花クラブの方が家庭で使用しなくなったこいのぼりを集め、泳がせているもの。今年もダム水面をワイヤーでつなぎ、色とりどりの100匹以上のこいのぼりが青空を悠々と泳ぎました。



▲青空を泳ぐこいのぼり

陽光に柔らかな緑映える

「一番茶手摘み始まる」

県 下の生産高を誇り、毎年全国、関西の品評会で優秀な成績を収める甲賀のお茶。今年も5月8日から土山、12日から信楽の茶園で、出品用のお茶の手摘み作業が行われました。

緑がまぶしい両茶園では、大勢の摘み手の皆さんが、新しい芽だけを感じ確かめながら丁寧に摘み取りました。今年は春先の天候不順で生育がやや遅れ、品質が心配されましたが、例年と変わらぬ高品質な出来のようです。今年も甲賀のお茶が、全国で高い評価を受けることに大きな期待が寄せられます。



▲丁寧に新芽を摘み取る皆さん（上）土山、（下）信楽